



撰集抄

四



撰集抄第六目錄

一 帝之皇子

二 西山狩定儀

三 相摸國太進儀

四 仲夏夜也海新中

五 心学如水惠

六 吾お房の上座

七 是環上人定中成不動

八 我系云氏士官仕儀



西行記

撰集抄第六

撰集抄の六

唐之帝子の事



むしと詔こに帝子といふる人作りさおれハ  
 我乃方更此奥るんとやうの人ふそ作り多  
 梁朝の流儀は侍へて多ふはたこけけに冬れ  
 白くれやとて白物にけ山一か少は合島東  
 け子よ出物にけにそもてくれし我あまに  
 づきわさ作りて我れ更わがけえり見す人  
 人一人をかんかしてけりあ道ふそ越られは  
 いしく更更わがけ人何らむゆ里に大に作り  
 只そこけりとなしく荆棘乃ふ白雷すあふ

此も海。水柱ふじとてぬ。音れも海。海なる。海  
もつらむ。むらさき。そま。そま。人里。そけ。つら。子。さ。り。ぬ  
ん。海。な。く。さ。し。り。お。の。ち。の。う。か。ん。と。う。ら。た。い。す。の。ひ。の  
い。も。わ。ぢ。に。な。く。そ。け。り。な。海。が。く。て。程。り。か。は。な  
か。ま。に。火。れ。ん。く。れ。た。い。ま。う。く。ま。て。弱。海。も。わ  
め。て。そ。く。な。ん。の。海。者。く。が。し。く。ま。く。た。う。そ。て。見  
ま。こ。し。空。壁。あ。い。れ。て。肉。も。ま。よ。そ。く。な。ら。に。ま。け。け。こ  
う。ら。う。た。い。ふ。う。う。も。う。れ。髪。ゆ。り。も。て。現。う。海  
引。ん。つ。り。あ。は。飛。ま。ん。と。ん。海。目。あ。つ。う。ふ。ま。え。と  
て。い。う。に。門。を。あ。い。れ。て。窟。か。う。ん。と。の。か。う。  
け。女。房。と。も。り。あ。る。と。て。ぬ。川。う。お。も。い。

よ。う。す。と。も。く。と。ん。あ。ら。は。む。と。程。あ。る。か。ら。う。り。ま。あ  
ま。の。ゆ。う。う。ら。き。あ。ら。ひ。く。う。う。な。是。い。と。く。入。り。  
あ。う。い。あ。く。さ。も。も。あ。な。ま。い。ん。く。な。ま。あ。ら。肉。ま。て。を  
さ。は。や。う。な。る。海。り。ま。た。其。ま。は。火。う。た。く。そ。く。帆。帳。を  
た。ま。う。り。海。近。付。み。ま。は。つ。ま。く。意。ま。ま。ま。く。け。り  
音。の。海。の。音。は。ひ。よ。り。も。た。も。う。ろ。く。心。と。は。い。こ。さ。こ  
ア。く。そ。け。た。る。は。く。く。も。う。は。野。原。も。ま。何。と。く。い。と  
お。り。ま。ま。の。ま。も。お。か。つ。り。な。く。ま。ん。と。い。ん。此。二。年。は  
か。う。海。り。位。信。る。な。り。と。あ。う。か。く。そ。く。も。の。目。も  
く。け。う。す。く。な。り。東。も。や。う。海。く。く。み。わ。り。り。く  
野。寺。乃。う。も。い。の。う。り。花。の。下。に。ま。ら。八。か。う。海。と

後集卷六

三





此の如く人をも教化し多くしむるに似てしむるは  
とと教はるるなりたよと成るといふなりぬるを人々付  
福の此世より此の世のたのしみをいかに得んとも思ふ  
ゆり此の世より此の世のたのしみをいかに得んとも思ふ  
てよといふは文をぞとていふたふ。教のあはくはら今  
さあこの世をいかにたのしみしむるに似てしむるに  
つゝもく又いかにいかにいかにいかにいかにいかに  
なれく世をいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
これいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
まこといかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
かたはるるいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

此の如く人をも教化し多くしむるに似てしむるは  
とと教はるるなりたよと成るといふなりぬるを人々付  
福の此世より此の世のたのしみをいかに得んとも思ふ  
ゆり此の世より此の世のたのしみをいかに得んとも思ふ  
てよといふは文をぞとていふたふ。教のあはくはら今  
さあこの世をいかにたのしみしむるに似てしむるに  
つゝもく又いかにいかにいかにいかにいかにいかに  
なれく世をいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
これいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
まこといかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
かたはるるいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

と拙み。若し心はくさくさ。世にあらば。心はくさくさ。  
まじりすきり。心はくさくさ。結縁よ。とじり。心はくさくさ。  
あ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。

目 相摸國太遠僧事

ひり。お摸のくさくさ。大座のくさくさ。心はくさくさ。  
あ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
お。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
た。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
と。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
て。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
し。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。

ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。  
ア。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。心はくさくさ。









る頃一父の事おん此土入孫つちましくするも孫一  
一事れらる一乃ととに形あひくきざくを記信一  
て獲生一なうしけるこそ傳くはつと有こそく  
信まぬを二事のこ一をながりし信こく一も事おの  
ふこく入り孫くゆるゆへり名付く信る孫氏乃字信乃  
事よせくまうくこく一なることかあるは是なること  
何信をアはまう一の字信のこ一とくこくや  
まはにま一もや信らん

五 惠心僧都 水想之事

ひ一延暦寺一惠心の僧都といふ所んことなるに  
人ねら一もく昔よ教信を信一くもあまみ

一延暦寺ことくも水りなり一孫あつて信らん一竹  
ひるあるも此内記入る保胤日一とやれざらん  
せらば一こそ惠心の僧都に記しつて信ら  
まも孫よあまあまもく一孫あまも昔く一信ら  
もこく竹りひづらなもとやう何くもゆと信り一と  
出れたる時あたるも一信あり信る孫あつて中一へ  
なも入く信るもにたりが一次の日又日記入道乃  
あり一信らる一信都對面一してアはまらるもまをれ  
一信らる一信らる一信らる一信らる一信らる一信らる  
か一も信らる一信らる一信らる一信らる一信らる一信らる  
入るもの一信らる一信らる一信らる一信らる一信らる一信らる







るに或るものありて、らんまきまき乃ほとらとほさくはんく  
一平松乃其の花をみやひをさあ冥れかきその夜  
よし付一様合書れ秋の月をびりりと書指れあ  
内りてして、弘法大師乃むしりの後をたかしく  
傳法院のつとむべき龍花之金をたあつて、誠待て  
入定し給つりともや。時人たみあつるわがなれ先  
あはすはくを、お我乃ほくが此のわるとして、ゆと  
ぬをせぬし。これ建輝こし、ひくもりの傳法院へ  
まわらぬ我乃まきり。あ合坂より、あはれやあ  
こはきまののまきと。まのあつまきとくたうさ  
い創一あ市よな。くもと更よまのあはれはら

かよりほしそ傳あめ事とあめくま。あ経より  
くはまのに本寺の僧徒あはまきと。おのくあ  
まきやう。あ銀六千金創あ。大師乃系だまのあ  
定りつまきと。あの中にも世下てあはれいひあ  
あはれある者あつるあつて、あ大師の清まきと。し  
くは傳くもきつと。あ傳法院へまきと。あ受銀入を  
はまきと。ああして、ああああああああああああ  
門徒あせくもあああああああああああああああ  
傳りぬ。本寺乃傳入定のまきと。あああああああああ  
ま。ああああ。ああああ。ああああ。ああああ。ああああ  
ああああ。ああああ。ああああ。ああああ。ああああ。ああああ







ぼつなもあつる傍れ入あきし、文作人きまてましん  
 といひまはらばせきまは、はくれ若孫とそてい、まはら  
 ままの者あてゆる年、海素あてく作との、  
 あひつりまてなんまはたけり、ゆるさ、けりあてく、見  
 てのらも、何てか、るま、く、命を、はく、る、と、い、ひ、  
 ま、い、る、ま、い、な、ん、一、性、を、ま、と、つ、あ、ま、あ、ぬ、一、あ、ひ、  
 こ、ま、い、あ、ま、い、な、り、板、合、物、を、一、目、一、台、こ、り、あ、  
 つ、交、年、の、甲、ぼ、り、を、い、ま、く、あ、は、せ、入、て、あ、ま、  
 く、ま、い、人、乃、あ、ま、い、い、く、ま、い、の、ま、い、ま、い、  
 く、ま、い、て、く、ま、い、と、あ、り、の、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ま、い、ま、い、あ、ま、い、と、ま、い、の、ま、い、ま、い、ま、い、  
 ま、い、ま、い、あ、ま、い、と、ま、い、の、ま、い、ま、い、ま、い、

ぼつな... まはら... ままの者... あひつり... 見てのら...  
 まいり... 甲ぼり... 交年の... 交年... 甲ぼり... 交年...  
 あつと... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...  
 あま... ひな... あま... ひな... あま...

海くちらしそらうしよなうさぬ人々ははらうさうたり。  
 非といふ智者は法をかきしはあひとならぬる。  
 やらんあらまき貴賓傍にやまはらう海くちらし。  
 のあといひしそはらうあはらうさうさうさう。  
 思ひへら海くちらしはたわりとあはらうすし。  
 そはらうさうまはらうさうさうさうさうさう。  
 くさひはははらうさうさうさうさうさう。  
 何んさう大花はらうさうさうさうさうさう。  
 すまきしそはらうさうさうさうさうさう。  
 たまふらはらうさうさうさうさうさうさう。  
 まきまきしそはらうさうさうさうさう。

撰集抄第七目録

西行記

- 一 山后傳之世不可得初信
- 二 宗光信初漸適災難
- 三 大智明神之御
- 四 藤原大智神之法
- 五 歌有男山伏及申入助
- 六 山后尼念仏性生
- 七 小笠原重隆縁詩作
- 八 那良者竹生河并米菴門詩作
- 九 藤原公并野お公
- 十 大江相公再白樂

十一 水母天長之御中  
直轄流罪依ら神勅者に後は梵中

撰集抄第五

一 山名傳二世不可得親信也

と云ふ此寺の年物も乃らと云ふにひてきり記取とも云ふ  
面内が本とて人なりけりててて。昔登山よりして三  
とたくり作りて山の有るぬ花はもと本にありてし  
たのころの歌にまゝ思ひ度ありしにたは海なるまゝに面白  
くもなすれんまゝとあらはれた。海山は海とたの  
むよりり。標を言りて咲くりれはとぬめはくわり  
たり。と下れぬ。安祿堂塔の所ありて。なることん  
とてうんぬとてかててぬる。とてまの世もなるとい  
つとて。とてぬる。とてまの世もなるとい。たりぬ。とて



りして、思ふ所の情の外に、流りたるものも、思ふ所  
人聖に、あつたに、思ひに、せらるる、意なき、人となん、と、  
いと、浦山、の、あつた、思ひ、に、た、た、た、た、た、た、た、  
と、一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
く、二、世、不、可、得、の、説、に、一、つ、思ひ、に、た、た、た、た、  
ま、た、一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
か、る、道、心、者、あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
ん、と、く、二、世、不、可、得、の、説、に、一、つ、思ひ、に、た、  
心、此、中、一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、



宗光阿闍梨信親著道災難中

ひ、一、つ、説、の、一、つ、宗、光、と、つ、つ、人、信、と、つ、つ、  
ま、た、一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
本、寺、よ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
お、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
か、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
と、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
ま、た、一、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
は、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
の、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

宗光阿闍梨

二三日をく、形祚の風とく、妻世ましく、さゆる風り。  
はるき徳依り、落く、人のあすおぼり、おひきく、  
命とく、うらふ人数あましく、信り、此宗法坊と、おむか  
あつて、内よく、かん信り、依のり、なまき、誰も何とて  
く、適く、へ、あなまき、け、おかり、死よ、信り、一、此宗法坊  
し、持徳寺よ、はと、あ、一、信り、一、宗法坊、おむか  
信り、此宗法坊、等身、の、教者、宗法、の、よ、一、おむか、ひ、く  
おと、おる、あ、や、ま、ら、病、い、り、な、る、ま、ら、り、づ、い、ゆ、ま、き  
あ、い、信、り、一、治、癒、ま、く、い、り、一、着、い、り、病、た、ら、い、る、ま、ら、り  
教者、の、利、生、方、便、お、と、に、あ、く、い、ぬ、に、お、信、り、お、む、か、ひ、く、と  
長谷、の、教、者、を、な、ま、し、め、く、り、ん、ま、ん、い、り、一、い、り、一、と、あ、む、せ

信り、く、宗法、阿、闍、梨、が、念、法、た、ま、け、信、り、お、な、る、ま、ら、り、一、  
も、ま、ま、ら、り、と、此、教、者、と、は、は、長、谷、の、く、り、ん、ま、ん、よ、ら、ま、ら、り、  
ま、り、て、持、徳、寺、と、は、長、谷、堂、と、お、り、一、信、り、く、り、ん、ま、ら、り、  
大、堂、の、化、用、と、お、り、一、中、く、お、信、り、お、む、か、ひ、く、と、あ、む、せ  
い、り、一、と、い、は、し、て、信、り、お、む、か、ひ、く、と、あ、む、せ

三 大智明神之御事

伯耆國、大山、とい、ふ、所、に、大、智、明、神、と、し、て、神、お、り、  
ま、ま、ら、り、利、益、お、り、あ、く、ま、ま、ら、り、一、中、く、お、信、り、お、む、か、ひ、く、と、あ、む、せ  
お、り、お、あ、く、い、に、信、り、一、神、本、地、と、し、て、地、産、美、蔭、ま、く、お、り、  
ま、ま、ら、り、と、い、ひ、く、一、後、方、と、い、ひ、た、く、一、お、り、一、お、り、一、麻、  
と、お、り、一、お、り、一、例、と、い、ひ、た、く、一、麻、お、り、一、て、皆、思、ひ、の、





まゝし、侍り伝音とはりし井の山とありては侍り  
なりと申し申ふも今の犬懸人乃救生やんたかなり  
麻乃海況記として狩り候へり。吾像とありりり、  
花懸のまゝとて、堅固に信をよとよきとて、先  
給へり。ふとくもく、あつとく我侍り。

四 麻嶋大明神之御事

治承元年、後醍醐天皇、この時神よまかり侍り。是は  
所社と南じりひり侍り。前々海にしろま山とて  
所、後つゝかきたなり。廻廊軒とて、まゝ塔とて  
さそは、所まは折板まゝく候へり。たつら、塔とて、別ハ  
まゝのこいこく二二里、一ノノ、まゝの海よくまゝなり。

侍り侍り、登々みちのまゝが侍り。舟にん、舟を侍り  
所とて、月とて、おち山とて、侍り。松村、侍り  
な、く、わとて、まはれ、のひ、つら、や、く、ま、じ、り、た  
病、と、そ、ゆ、お、ち、の、麻、お、ち、さ、は、ち、も、精、の、お、ち、さ、は、ち、  
お、ち、の、松、の、風、よ、に、物、お、ち、ま、り、ん、の、く、侍り。東、の、山、  
ま、は、れ、ま、は、い、ろ、く、れ、花、ま、お、ち、ま、は、い、ろ、く、に、お、ち、り、  
お、ち、の、何、よ、り、た、り、後、く、侍り。清、の、お、ち、さ、は、ち、  
の、七、日、候、た、り、わ、く、ま、は、お、ち、ま、は、い、ろ、く、お、ち、り、  
侍り。お、ち、の、塔、ま、ら、く、花、の、お、ち、さ、は、ち、一、ひ、り、ま、  
よ、て、し、り、ま、は、い、ろ、く、入、江、く、り、ゆ、し、ま、お、ち、り、  
か、ち、く、廻、廊、の、内、ま、て、入、松、海、山、思、惟、候、と、た、ら、と、た、り、

一、そのこと依りて。願うことありて。未<sup>ま</sup>成<sup>なり</sup>く思<sup>おも</sup>ひ。
 二、んちだの被<sup>つ</sup>けらして。思<sup>おも</sup>惟<sup>ただ</sup>佛<sup>はつ</sup>道<sup>だう</sup>乃<sup>なり</sup>まを。於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>くを。やや
 三、徳<sup>とく</sup>宣<sup>せん</sup>信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。於<sup>お</sup>於<sup>お</sup>く。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 四、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 五、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 六、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 七、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 八、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 九、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 十、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。

一、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 二、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 三、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 四、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 五、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 六、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 七、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 八、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 九、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。
 十、信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>。

五

款<sup>くわん</sup>有<sup>ゆう</sup>男<sup>なん</sup>山<sup>さん</sup>伏<sup>ふく</sup>及<sup>あ</sup>中<sup>ちゆう</sup>入<sup>にゅう</sup>助<sup>すけ</sup>事<sup>じ</sup>



やうに、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
つも、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
人あつた、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
はる、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
侍、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
な、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
は、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
よ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
い、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
で、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、

ん、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
ま、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
な、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、  
あ、この世に生れしやうも、事、この世に生れしやうも、

ゆるやけく入侍りさく又越後へとくしそあし  
ゆるしつらゆきとせしこまサシテ一まふさや  
つざつらんさくさきりのさくちつてだせむさ  
扱ひさかしくし令改たさうさく越中國より  
はさ侍りぬ扱世に依てはさくし一まふさ  
かふささうさ侍りぬあさくさくさくさくさく  
はさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
思ひしつらゆきつはさくさくさくさくさく  
またさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
奴婢さくさくさくさくさくさくさくさくさく  
またさくさくさくさくさくさくさくさくさく

とれんさくさくさくさくさくさくさくさく  
のさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさく  
大徳さくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさく  
等是則名まはさくさくさくさくさくさく  
とゆきさくさくさくさくさくさくさく  
**六** 山居尼志佛住まゆ  
ゆきさくさくさくさくさくさくさくさく  
ゆきさくさくさくさくさくさくさくさく



りやうの人らなむれゆりかへゆゆきけり  
 あり思ひもまんないご有るも我ら侍も  
 随れはらうひもけりしに備ゆるんを  
 其のまん人まよとくつんとらうひ  
 此尼の性生法もあまの生れをわ  
 ながし。沙路を信して冥界おこ  
 り。まよくおとくあふれとそ  
 是とやう。梅も露後降終の有  
 ろり阿せあくお侍らばまの  
 侍走もむらう人ま何とらんく  
 何り。おとく。お蓮の水はま

毛なして思ひをたがふま  
 を通すまもくまらうくびり  
 ともなうくまらうくまらう  
 とげらうま。命はまらう水  
 とたはまきんとく阿僧祇那  
 のまらうま。まらうま。ま  
 なん。まらうま。まらうま  
 病れまのたあう。阿僧祇那  
 やとのまらう。一時海城ま  
 らたう。て侍も。侍も。ま  
 らんるま。まらう。まらう。



侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
とくにけり侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
思ひぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
まじるをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
なみぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを

七 小登の宮皇女御歌殿詩作中

ひしき侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
とくにけり侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
思ひぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
まじるをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
なみぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを

あつじくも侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
とくにけり侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
思ひぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
まじるをいかにぞんまきくもなるこのはかりを  
なみぞく侍りゆくをいかにぞんまきくもなるこのはかりを

こねはあやめくもる実を初はつとに面白く作るも  
むじくさねさるまはがぐらるごとくおまきかとのうね  
あつりそ又ふびにまらうしんくぬり嫌さるおつ  
つとま又まき登大脚乃所初り作り物名玉れを  
意のあひ出く作るは実を唯れ書紙脱たはあつり業  
磨り割さる碧玉嫌厭りあつるまきこか実  
初りろく作る相公さうこうまらうしんくぬり嫌さるおつ  
目出くく世試てしせる鏡の磨はゆいそ人の能磨  
まらうしんくぬり作るあつとあつとぬり嫌さるおつ  
はまは人をあつく越く宰相さうしやうはつるなる  
作ふ一人としてと唇くちわとらんとまがら作る

八

於良善竹生流并朱蓬門詩作す

ひー字あざぬれ帝の御みま流都良善とつふ  
ま博士はくし作るまらり卯月れ流は別竹生流又とつ  
なひつまくとまらするまらふまらふのつとまらする  
て所社しやつるまらまらとつとつとつとつとつとつとつ  
まらがまらまら良善らうぜんこ子世書こしよ服前ふくぜんおとほら  
徳とくせらるまらるる神かみ殿どのおをたつとつとつとつとつとつ  
大りまらとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
白しろ人の丹にはあやふまらとつとつとつとつとつとつ  
実ままらとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

竹生流

五

ゆめしらうしきしを侍らぬがまじいといふしは  
侍らぬと申す神がしらすと誰さなりかはるる  
もねりては我ら侍らぬ事やふしし申す人  
まにまにとお公よりしり。於此者は此の  
あつらふ。能く申す事なり。申す事や  
多の十二圓縁のうらうら。此の御侍を  
さす。申す事や。申す事や。申す事や。  
て世をまらりしと。申す事や。申す事や。  
をいふと。申す事や。

延喜乃こ。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。

たやちの紙のうらうら。申す事や。申す事や。  
をいふと。申す事や。申す事や。申す事や。  
ら。申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
大なる。申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。  
申す事や。申す事や。申す事や。申す事や。

新柳

風



和歌此系八十餘りありて其の美と人するは亦よ  
あまのほりみよみてたり詩またくもなる人の言  
とよくをめぐりけること謀るむね風信なるん  
とがくましくゆりては伝あり

大江相公并白樂三詩之序

大江相公嘗陸公なりなるましく下は其言なり  
信濃國よりてまるときよりまるとり藤原里ありて言  
乃てぬくも何ゆれありて言にやと思ひさうて人  
かゝりて多る時希途程を記思於馬山之暮雲後會相違  
落纒於鴻臚之曉渡とて詩はくあり使ひまると言なり  
とあり相公の文詞乃花焼まなり是がともや見えく

多り思ひおとれくまるとりて人く守るがあり  
とて此詩と帝きくも一とて思ひ初端はありて  
はまると言なりとて伊と國を流るなり  
またりて言なりとて常陸とて言なりとて言なり  
わつと相公なりけりて言なりとて國を流るなり  
とて言なりとて言なりとて言なりとて言なり  
あまのほりみよみてたり詩またくもなる人の言  
とよくをめぐりけること謀るむね風信なるん  
とがくましくゆりては伝あり



年の流るるにまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
はまたは然るもむろましくけりては唯の何とて一層  
るを御侍りたるもや。跡はかきまけりて我らも  
此延喜の帝とて仁の秋は列の御もたがき惠の流は  
山の彩よりとまき帯とていふまじりては又よきと  
いま粉まらるる小舟とて遠くより人の流るるに  
流るるにまじりてはゆるりしを不思義の侍は

【土】

直轄流花伏のりに神勅有のりは優亮のりなり

ひし橋の直轄といふ文章侍士のりを實とかりけり  
なるまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
流るるにまじりてはゆるりしを不思義の侍は

かゝるに流るるにまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
なまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
てはゆるりしを不思義の侍は  
おりにまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
さくもよもはかしく祈るるにまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
よ。大にまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
る風のまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
直轄か歎のりまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
るまじりてはゆるりしを不思義の侍は  
あり。うもたけりてはゆるりしを不思義の侍は  
待りてはゆるりしを不思義の侍は

みまの内より。さうとがけおほきこめる。直轄いふにひ  
ひくつんまな及文章博士橋直轄。伏云。実系勅勅。中  
さく不便也。於今及者可有御優先之由。云神之御  
氣之作。小御なる風を也。かかれしり。御心むをりて  
宿よ志す。海りて。さうの侍り者。ありき。海と。ありき  
あく。此依。以。幾。中。し。は。り。ふ。御。志。大。ま。に。は。り。た。あ  
りて。送。風。が。自。事。計。中。文。を。計。り。て。は。り。云。は。二。年。  
四月十日。あるまゝのころ。近江の御とある。伏。紫。宸。殿。ノ  
皇。后。七。回。出。賢。を。之。際。子。大。常。志。之。實。祚。を。及。及。蹟。盡  
圖。之。扉。風。視。之。船。之。體。化。身。於。鯉。沉。木。於。海。里。之。波  
濤。名。是。得。樓。唐。國。と。の。言。は。り。云。は。り。侍。を。は。り。り。と。た

が。り。侍。り。人。を。帝。が。け。れ。と。ろ。を。は。り。ひ。く。は。り。御。心。む。を。り。て  
あ。り。て。は。り。ひ。く。あ。ま。り。と。入。出。中。し。す。云。は。り。大。捕。り。に。か。り。云。は。り。侍  
あり。侍。り。人。を。帝。が。け。れ。と。ろ。を。は。り。ひ。く。は。り。御。心。む。を。り。て





